



2019年4月10日発行
 特定非営利活動法人
 盛岡YMCA
 〒020-0015
 盛岡市本町通 3-1-1
 Tel 019-623-1575
 Fax 019-623-1579
 www.moriokaymca.org
 発行人/ 濱塚 有史
 編集/ 本部事務局

YMCA News



「恩返し」

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



私は盛岡YMCAのリーダーが大好きだ。面白いし自分の意見をはっきり言うし、何よりこんな自分を受け入れてくれる。だから、リーダーとご飯に行ったり遊んだりして、たくさん関わっていきたく感じる。改めてすごい人たちだと常々思う。

リーダーは様々なことを私に教えてくれる。特に印象に残っているエピソードがある。私は、顔にたくさんの「しわ」がある。18本あるらしい。先日宮古の子ども達に教えてもらった。街行く人の顔を見ても、そんなにしわがある人、見たことない。

私はこのしわが大嫌いだった。本数が多いし変だし、何より写真で目立つ。コンプレックスの一つだった。リーダーから「すげえしわだな!」と言われ、ちょっと傷ついた。そこだけはいじらないで欲しいと切に願った。その後も、だんだんとしわについていじられる回数が多くなり、ついにリーダーに言った。「しわをいじらないで!」と。すると、あるリーダーが「今までたくさん笑ってきた証拠じゃん!」と私に言った。

自分が思っていた“マイナス”を、そのリーダーは“プラス”に捉えてくれたのだ。皆さんは何気ない一言に思うかもしれないが、そのリーダーは私に「マイナスもプラスに捉えることができる」という事を教えてくれた。すぐにマイナス思考に陥ってしまう私は、その発想は思いつかなかった。そのほかにもリーダーから数えきれない事を教えてくれた。

今度は自分が、みんなに何かを教えたり、伝えたりできれば良いのと思う。何事も無ければ今年で卒業してしまうため、リーダーと直接関わられるのはもう1年もない。でも最後だからこそ、今年度はリーダーたちとたくさん関わり、私から何かリーダーに、教えられれば良いと思う。

岩手県立大学4年
岡田稜平(みんなリーダー)



盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深めます。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

～卒業生より～

『出会い』

2019年3月。さそりとしての4年間に幕を閉じました。4年前、YMCAに出会わず違う大学生活を送っていたとしたら...という想像をしてみました。気の合う友達と大学に通い、アルバイトをしたり、旅行したり...きっとその4年間でもそこそ楽しかったと思います。でも想像できる楽しさです。私の4年間はそんな想像できるような薄っぺらいものではなく、深く濃く、時に楽しく時に辛く、非常に有意義なものだった自信があります。YMCAで出会ったリーダーは、個性の塊。私の考えるリーダー達の凄ところは、誰一人残さず、心を掴んで仲間になることです。目の前にいる人と向き合うことを恐れず、逃げず、時にはゴールの見えないテーマについて何時間も討論してみたり。そんなみんなと過ごした時間は私にとってかけがえのないものです。

卒業に際して今までの参加してきた活動の写真を振り返ってみました。私は笑っていて、周りの子ども達もリーダー達も素敵なお顔を笑ってました。活動で、一番思い出深いのは、出来なかったことができるようになった瞬間の笑顔を見られたことです。出来ない!僕には...私には...最初はそんな弱気ですぐ諦めてしまうような子でも、時間を経て自分を信じて絶対に出来るかと願えば、いつか必ず達成できます。今まで出会ってきた沢山の子も達か私にそう教えてくれました。可能性は無限大で、でもその可能性を引き出せるかは一緒に過ごす人の力が強いと思います。私はみんなのおかげでふざけられるさそりに出会いました。

出会えたみんなに大感謝です。今までありがとうございます。

盛岡YMCAリーダーOG
菊池望(さそりリーダー)



『自分らしく』

あつという間に3年の月日が経ちました。振り返ってみると、たくさんの思い出が溢れてきます。私は、2年生の時にダイラーが誘ってくれたのがきっかけで、YMCAに入りました。そしてそこからの3年間、たくさんの人たちと出会い関わりを持つことができました。馬鹿っぽいけど芯をしっかり持っている人、感情的になるけど誰よりも熱い気持ちを持った人、不器用な人、のほほんとした人、他にもいろんな人たちがいて、そこに自分がいました。

そんな中で、子どもたちとたくさん遊んだり、リーダー、スタッフと馬鹿なことをしたりと、何気ない日常的だったことが今では大事な宝物です。「ショッカー!」最初はこう呼ばれると恥ずかしい気持ちでした。今でも少し恥ずかしいです。ですがそれ以上に、とても嬉しい気持ちにもなりました。もう呼ばれる機会があまりなくなってしまうのは寂しいです。

4月から岩手を離れますが、盛岡に戻ってきてみんなに会えた時、また「ショッカー!」と呼ばれるのが楽しみです。

最後に、リーダー、スタッフ、ワイズメンズクラブ、盛岡YMCAに関わる全ての方々へ支えてきていただいたことに、心より感謝申し上げます。この3年間、様々なことを経験することができ、そこからたくさんの学びを得ることができました。YMCAで感じたことを忘れずにこれからも、「自分らしく」楽しく何事にも挑戦していきます。盛岡Yが大好きです。3年間、本当にありがとうございました。

ボランティアリーダーOB
伊藤陸(ショッカーリーダー)



『それがチーズだよ』

「チーズ!」そう呼ばれてもう4年が経ったと思うと、ほんとにあつという間だったなと思います。私は盛岡YMCAのリーダーとして、水泳教室やサッカースクール、キャンプなどの活動に行っていました。子どもたちと過ごした時間や、その倍以上の時間を一緒に歩んできたリーダーたちとの時間は、私にとってかけがえのない大切な思い出です。

悔しくてたまらなかった時も、やり切った嬉しかった時もそばにいたのはいつもリーダーたちです。自分ごとのように考え行動できるそんな優しく強いリーダーたちに出会えて、本当に感謝でいっぱいです。

そんな人たちが集まる盛岡YMCAのリーダーとして過ごしたことは、これからの私の頑張る源であり、胸を張って自慢できることです。きっと私は頼りなくて、いつも大丈夫かなくて心配させていたと思いますが、「それがチーズだよ」と笑いながら言ってくれるみなさんが大好きです。

そして何より、今まで出会った子どもたちに感謝です。悩んだ時も逃げたくなかった時も子どもたちの笑顔がそれを忘れさせてくれ、負けてたまるかと強くなる存在でした。

「君でいいんだよ」と自分らしくいさせてもらえる盛岡YMCAは私にとって大切な居場所であり、大好きな場所です。4年間ありがとうございました。

ボランティアリーダーOG

小野寺保乃香(チーズリーダー)



～インドスタディツアー～



こんにちは!マックスです。2月19日から3月9日までに行われた第23回学生YMCAインド・スタディキャンプに参加して参りましたので報告をさせていただきます。

インド・スタディキャンプは、日本YMCA同盟主催で行われ、南インドのユースホステルや孤児院に滞在し、インドのYMCAや、NGO団体など様々な施設を訪問し、インドの文化や社会状況と、その中で活動する団体の大切さなど多くのことを学びました。また、たくさんの人たちと出会い、交流することもできました。

インドでの時間は、非日常的でたくさんの衝撃を受けました。バンガロールではストリートチルドレンと呼ばれる、路上で生活する子どもたちと出会いました。彼らは舗装されていない道路を裸足で歩いて花を売っていました。私が普段YMCAの活動で関わる子どもたちと同じ年代の子どもたちが、そのような生活をしていることが、正直受け止めきれませんでした。インドのYMCAでも、滞在先の孤児院でも子どもたちと出会いましたが、施設がなかったらその子たちもストリートチルドレンだったかもしれない。施設の大切さ、凄さを強く感じました。それと同時に、今までの視野の狭さや、自分は今何が出来ているのかということを考えさせられ、たくさん自分と向き合いました。この経験をこれからのYMCAでの活動や、それだけでなく自分の将来に活かしていきたいと思えます。

最後になりますが、今回のキャンプはたくさんの方々のご支援のおかげで、参加することができました。これから報告書を作成し、ここに載せきれなかった色々な体験や想いを改めてお伝えしたいと思っています。本当にありがとうございました。

岩手大学4年 東彩由海(マックスリーダー)



こんにちは!マックス同様、第23回インドスタディ・キャンプに参加させていただきました。インドでの体験は、日本では味わえないものばかりでした。カースト制度が根付いていたり、多宗教国家であるため宗教間の問題があったり、さまざまな問題がありました。今後、作成していく報告書で感じたこと、学んだことをたくさんお伝えできればと思っています。ここではインドでの生活について書きたいと思っています! まず食生活は、基本的に3食ともカレーでした。飽きるかな?と聞いていましたが、日本のカレーとは違い、たくさんスパイスを使って作っているのでもココナッツ風味であったり、甘めであったり、とてもスパイシーであったり、毎日毎日違う味のカレーが出るので、(キャンパーの中で唯一?)私は飽きることなく17日の間、食を楽しむことができました。(マックスはスパイスにやられて、後半はずっと胃薬を服用しておりました...笑)

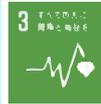
カレーはスプーンではなく手で食べます!カレーと一緒に出てくるタイ米のようなパサパサの細長い米やイドゥリーと呼ばれる米粉で作った蒸しパンのようなものなどカレーを混ぜて、それを手でつまむようにして口に運びます。2、3日で慣れますが、慣れると同時に爪が黄色くなります。

またインドでの生活で一番ワクワクできたのが現地の言葉、タミル語です。他のキャンパーより英語が苦手だった私は、「もうタミル語で勝負してやろう!」と意気込んで、拙い英語で「タミル語でなんていうの!」ととにかく聞きまくってありました。今回のキャンパーの中で英語が一番できないかもしれないけど、タミル語が一番できる人になれたと思います。タミル語を話す現地の人はとても喜んでくれるので私も楽しくなることができました。食生活といい、タミル語といい、インドは私にあっていられるかもしれない.....笑

学びもたくさんありましたが、楽しいこともたくさんありました。支えてくださった日本の方、インドの方、全ての方々に感謝でいっぱいです。報告書も完成しましたら是非ご覧になってください。

岩手大学4年 尾河芽生(ドリケンリーダー)

盛岡YMCA フットサル大会2019



3月9日土曜日に滝沢市東部体育館を会場として、盛岡YMCAフットサル大会2019が開催され51人のサッカースクール参加者が集まりました。各年代が熱い戦いが繰り広げられるとともに、普段は交わることの難しい、他のスクールのメンバーとも同じチームとして試合をすることの出来る貴重な機会となりました。

今大会は、本気の試合をする中にも笑顔あふれる楽しい雰囲気で行き、会場についたばかりの頃は普段のスクールとは全然違う人数に圧倒され、緊張しているメンバーもいた中、最後には同じチームで鬼ごっこをするなど、いい大会になったかと思えます。もちろん試合の結果は大事ではありますが、それよりも楽しくサッカーをすることによってそれぞれのチームが向かっていっているように感じました。サッカーというツールで今までのつながりがより濃いものとなり、新たなつながりも生まれたのではないかと思います。今回のフットサル大会をもって、今年度の盛岡YMCAで行われるサッカー大会は最後になります。

残念ながら今年度はファミリーサッカーフェスティバルを開催することができず、チャンピオンズカップと今回のフットサル大会の開催となりましたが、それぞれの大会に新たなつながりや、新たな気づきがある大会になったと思います。

新年度も今年度同様に3回のサッカー大会を計画しています。私自身、どのような大会になり、どのような試合が繰り広げられ、どのような出会いがあるのか、とても楽しみです。今後も盛岡YMCAのサッカーをどうぞよろしくお願いいたします！

盛岡YMCA 向平悟



宮古 お泊まり会



みなさん、こんにちは!シュリンプです!私からは、3月16日~17日に行われた、宮古お泊まり会について報告させていただきます!宮古お泊まり会は、いつも宮古サッカースクールで活動している子ども達が参加する活動で、今回は12人が参加してくれました。子ども達は、集合の時から緊張の様子もなく、みんなで和気あいあいと過ごしていました。

バスの中でもすぐく元気で、あっという間に陸中海岸青少年の家に到着。サッカーの練習が始まると、1人1人が自分のできないことにチャレンジし、失敗しても諦めずに続けている姿が見られました。お昼ご飯の時には、普段話さない友だちとも笑顔で喋っている様子も見られ、更に子ども達の仲が深まっているように感じました。お昼ご飯を食べ、午後の練習がスタート!とはいかず、サッカーボールをストーンに見立てカーリングをしている女の子達の、「やーぶ!」という明るい掛け声が体育館に響き渡っていました。

その後、午後の練習が始まりました。対一の練習では、子ども達の目の色が変わり、目の前の相手に負けないように必死にプレーする姿や、負けたと本気で悔しがっている様子も見られました。

夜のプログラムでは、子ども対リーダーで球技大会をしました。一致団結して、リーダー達を打ち負かそうと頑張っており、勝った時には、わっと盛り上がり喜んでいました。

2日目は、宮古ファミリーサッカーフェスティバルが開かれ、いつもの練習の成果を、保護者を相手に実践していました。点を取られても諦めずチームを盛り上げ続けている姿も見られました。私は、この二日間を通して宮古サッカースクールの子ども達の雰囲気がもっと好きになりました!来年度も、一緒にもっと良いサッカースクールを作っていきたいと思いました。

岩手大学2年 宮澤秋彦(シュリンプリーダー)



第1回 盛岡YMCA大会



2019年3月21日(祝)に、いわて情報交流センターアイーナ501会議室を会場に、第1回盛岡YMCA大会が行われました。

当日は、田口勉横浜YMCA総主事、島田茂元日本YMCA同盟総主事、上條直美認定NPO法人開発教育協会代表理事のお三方をゲストに迎え、理事・常議員、職員、ボランティアリーダー合わせて60名近くの参加となりました。

当日は、3つのセッションを設け、様々な年代が交わりを持つことが出来るよう、10のグループに分かれディスカッションを通し、思いや考えの共有を行いました。1つ目のセッションでは現代の子どもたちが抱える課題について、2つ目のセッションではグループを移動し、こんな子どもになってほしい、このような姿を大切にしたい、3つ目のセッションでは、1つ目のセッションのグループに戻り、最終的なまとめを行いました。

各グループで活発に意見が交わされ、自分とは違う年代の考え方に共感したり、新たな気づきを得たりという姿が見られました。各グループでまとめたものを全体発表として報告しましたが、その中の多くには、子ども自身の姿だけでなく、取り巻く大人の姿が非常に大切になるという話がどこのグループからも上げられました。

子どもと相対し、目の前の子どもの姿と自分たちの姿を照らし合わせ、話がされていたことが大きな気づきと発見だったように思います。

今回のYMCA大会を通しての、新たな気づきや学びを基に、2019年も盛岡YMCAは目の前の子どもたちと共に歩むことが出来ればと感じました。終わりになりますが、参加して下さった、3名のゲストの方々並びに多くの皆様に感謝申し上げます。

盛岡YMCA 浅沼慧

「失敗について」

朝の連続ドラマ「まんぷく」が終了した。安藤サクラが演ずる主人公の立花福子が、インスタントラーメンの開発に取り組む夫の立花萬平(長谷川博己)を支えていくというストーリーだ。このドラマは実在の夫婦をモデルに作られている。今では世界中の人々が食するインスタントラーメンだが、世に出るまでは失敗の連続だったことが番組をみるとよくわかった。

考えられる全ての方法を試して、それでもだめだったと落ち込む萬平に福子は優しく語りかけるのだ。「さあ、次を考えましょう。萬平さん」そしてさらにこう付け加える。「失敗したということは、一歩先に進んだということですよ」

僕たちは日々の生活の中で、様々な失敗を犯す。人様に迷惑をかけたなら謝らなければならないし、それが再び起らないように直していかなければならない。でも、中には散々努力しても報われない場合も多々存在する。しかし、それって本当に失敗と呼ぶものなのだろうか?ひょっとすると人生の標識みたいなものではないか?と思えたりもする。僕たちはこうした標識に出会う度に一時停止して考えてみたり、右折したり左折したり、あるいは、やはりこれしかないかと決断しながら、人生の道を歩んでいくのではないだろうか。

4月は新たな出発の季節だ。進学、就職など様々な場面で新しい環境がスタートする。中には、不本意な進路で不安でいっぱいの人もあるかもしれない。そんな人たちに福子さん、萬平さんご夫婦は、「失敗の達人になれ!」ということを教えてくれているように思えた。

あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。

むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。

コリント人への手紙 第一 10章 13節

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

日本でメンバーも考えた 最終回

バイト先で勤務中にあった出来事を振り返り、上司と部下の立場に立って考えてみると、それぞれの気持ちを分からなくはない。あえて皆の食事代を出した部下の純粋に上司を思っ起こした行動に対し、部下たちを慰労したいと思っている上司は、部下の行動に理解が出来ず、お互いに不愉快の場面を見せてしまった。

日本に来た当初は、全く気遣いに馴染むことが出来なかったが、3年近くの日本生活でいろいろな人と触れ合い、いつの間にか人を思いやる心が培われた。相手の気持ちを自分のことのように、また他人の考えや思いを何時までも大事にし続けながら、自らの行動をとることが出来るというのは、まさしく気遣いが出来る、おもてなしの心を持っているということなのではと思う。今回の上司と部下の件は、どちらが正解という結論を出すものではないが、お互いにお互いのことを、自分のことのように思ったときに初めて気遣いが生まれる。それでは、皆さんにとって相手の迷惑にならない程度の、ちょうどいい気遣いとはどのようなものでしょうか。「後ろの人のためにドアを開ける」や、「混んでいるレストランで早く食事を済ませて次の人に席を譲る」など、外国人の私にとってちょうどいい気遣いというのは極めて難しい。

そもそも、ちょうどいい気遣いに定められた基準はないし、いっどこで気を遣わなければならないのか、私もはっきり分かっていないが、相手が不愉快な気持ちを抱かないよう、過剰かもしれない自分の気遣いを常に心掛けている。皆さんも、是非この機会に「ちょうどいい気遣い」について少し考えてみてはいかがでしょうか。

以上、「メンバーが日本について考えた」シリーズでした。ここまで読んで下さった皆さん本当にありがとうございました。このシリーズを通して、外国人の私が、今日に映っている日本が少しでも皆さんに伝わればと思います。今回は私からではなく、誰がどこの国を紹介するのかお楽しみに!



(写真:日本といえば
富士山ですね!)

岩手大学3年 オンホーイン
(メンバーリーダー)

感謝

(2019年3月29日現在) 敬称略

●維持会員

熊谷大樹、工藤直子、今松桂子、熊谷太、吉崎陽、水田賢次、大関靖二、阿部深雪、光永尚生、濱塚秋二、濱塚れい子、増田隆、名古屋恒彦、名古屋理恵、植田茂一、戸原文、高橋友恵、熊谷力實、尾形裕一郎、伊藤信彦、田村治之、川坂保宏、澤田優美、北田仁則、北田アユ子、古澤伸、武田理恵子、鶴丹谷三千代、高橋廉翔、人見晃弘、菊地弘生、重石桂司、高瀬稔彦、千田沙里、工藤悦子、家村知佳、滝川佐波子、小笠原邦夫、遠藤昌樹、清水治彦、上中優奈、今野聖子、今野健男、林辰也、森山日菜乃、森山幹大、佐藤隼人、工藤あさひ、工藤誠太、佐藤洋一、中島敬泰、小野寺大介、魚住恵、神田橋慧一、山口貴伸、濱塚有史、濱塚真美、高橋奈菜、押切梓、齋藤之彦、南原良哉、小林茂元、伊藤眞一郎、伊藤まどり、小川嘉文、小川明佑、伊藤眞太郎、伊藤愛美、松尾聡子、中原賢澄、日語教会、島田茂、佐藤翔、中村圭一、小山憲彦、角谷晋次、水野暢夫、澤田欽平、井上浩太郎、井上優子、井上修三、宮崎幸雄、浅沼慧、浅沼美希、大塚英彦、晴山浩輔、尾張幸久、小守林靖一、東森聡、武田理恵子、魚住英昭、秋永光里、杉田深雪、相馬みなみ、釜澤洋、武田悠、深澤英雄、深澤多紀子、及川茂夫、長岡和義

●寄付金

今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、濱塚秋二、濱塚れい子、増田隆、高橋友恵、熊谷力實、伊藤信彦、中原賢澄、角谷晋次、潮田祐、晴山浩輔、齋藤優太、藤原祐三、尾張幸久、小守林靖一、武田理恵子、新藤淳

表紙の写真から



2月19日から3月8日まで、18日間、盛岡YMCAの2名のリーダーが日本YMCA同盟の主催する第23回学生YMCAインド・スタディキャンプに参加してきました。さまざまな学びと気づきがあったようです。

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>